



同續キ
ボンベイ府高法會議所規則

大藏省
翻譯課

1663

1662



A 5150



ホ
ン
ベ
イ
府
高
法
會
議
所
規
則

高法會議所ヲ設立スルノ目的ト其職分トハ商業ヲ營
 ノヲシテ其一般ノ利害ニ關セル事件ニ付キ互ニ友誼
 ヲ盡シ互ニ意向ヲ同フセシメンカ為メニアリ、ホ
 ンベイ府下
 一般ノ高賣上ノ利益ヲ振興シ且ツ之ヲ保護センガ為メニア
 リ一般通高上ノ利益ニ關セル諸報聞ヲ集メテ之ヲ明ラカニ
 センガ為メニアリ、諸商人ノ頭上ニ一体ノ如ク被ムラシムル
 所ノ害アルヲ發見スルニ當リ即チ一般高賣上ノ利益ヲ該
 會ノ力及ブテ改良センガ為メニアリ、慣習上ノ事ニ於ケル
 紛議ヲ領受シ之ヲ判決シ其判決ノ次第ヲ記録シテ後日ノ
 用ニ濟ム且ツ大レ是レノ方便ニ依リテ商業ヲ便利ナラシメ
 ンガ為メノ慣習法ヲ組成スルノ補祐トナセンカ為メニアリ
 他ノ地ニ於ケル官吏及ヒ同目的ノ為メニ設立セル會議所ト

大
正
十
一
年
四
月
大
隈
侯
爵
印

大
藏
省

書信ヲ通シ且ツ一般商賣上ノ利益ニ関セル事件ニ付キ人民
ト書信往復ヲ為シヤンガ為メニアリ該會議所ノ判決ヲ受ケン
ト欲スル所ノ原被ノ間ニ立入り仲裁ヲ施シヤンガ為メニアル
ナリ

第二款 商業ヲ營テムモノ該會議ニ合體センコトヲ希望シ而シテ
該會議所ノ目的ヲ實際上ニ施行スルコトニ付キ助力セントノ
意アル所ノ人ハ該會議所規則第三款ニ云ヘル如キ大會議ニ
於テ三分ノ二ヨリ少クカラザル多数ノ投票ニヨリテ議負ノ
列ニ加ハルコトヲ得ベシ

第三款 該會議所ヲ組成セル人負四分ノ一ヲ以テ規則通ノ手
續ヲ以テ召集セラレタルニ於テハ大會議ヲ執行スルニ足ル
モノトス但シ一商會ノ代人ハ一人ヲ限ル素ヨリ一商會ヨリ
二人以上ノ出席アルモ該會議所ノ議負ト算スルハ一人ノミ

八三

ニ限ルモノトス○該會議所ノ規則中ノ改正ヲ行ナフコトアル
ニ當リテハ之ヲ行フノ前全七日間ノ報告ヲ為サザルベカラ
ス而シテ斯ル報告ハ之ヲ書附ニ致シテ該會議所ノ書記ニ付シ
該書記ヨリ之ヲ總議負ニ轉章ヲ以テ報知セザルベカラス
第四款 該會議所ハ必要ノ場合ニ在リテハ規則通リニ召集セ
ザレタル大會議ニ於テ出席スル所ノ議負ノ四分ノ三ノ多数
ヲ以テ大會議ニテ事ヲ裁決スルノ專權ヲ有ス

第五款 該會議所ノ各議負(即チ一商會)ノ出銀ハ一ヶ月二十
ツピ^ル十六錢^ニ當ル^ハナリ而シテ議負ヘノ公告票手數
料ハ一通毎ニ十五ツピ^トス

第六款 一員七人(即チ會議所議長同副議長各一人并ニ議負五
人)ニテ本會ノ事務ヲ管理ス而シテ委員三名ハ
年々カド^ル大會議ニ於テ撰舉シ其月ヨリ一ヶ年間其職ニ在

歳首

ルモノ、尤モ満期ノ後之ニ再任スルヲ得ベシ。○議長及
副議長各其場合ニ應シハ、エキスオフシオリ議長タルベシ
若シ右ケタルハ委員中ヨリ其議長ヲ撰挙ス。○預備ノ定員
三名ヲ置キ委員中其職ヲ辞スルモノアルハ此ノ預備員ヲ以
テ其欠ヲ補ナハシム。

第七款 議長副議長并ニ委員ヲ撰挙スル為メノ大會議ヲ招集
スルニ當リテハ必ナクモ七日前ニ其旨ヲ開陳シ而シテ撰挙終
リタル上ニテハ其姓名ヲ七日間談會議所ノ各室ニ張出シ且
轉章ヲ以テ議員ニ報知ス。一商會ヨリ二人一時ニ委員トナル
トヲ得ス。

第八款 委員ノ前ニ持出ス總テノ議事ハ其説ノ多数ニ依リテ
之ヲ決ス其数同一ナルハ議長之ヲ決ス。

第九款 委員ハ毎週一回金曜日又他ノ都合好キ日ヲ以テ談會

八

議所ハ會合シテ總テノ事務ヲ調理シ且ツ一般ニ談會議所ノ
目的中ニアル所ノ事ヲ高議ス而シテ其議案ヲ机上ニ備ヘ置キ
議員等が規則ニ從ヒ検査スルノ便ニ供ス。

第十款 談會議所ノ大會議ハ一年四回其時々ニ發生セル一般
ノ公益ニ関スル凡百ノ事件ヲ高議スルガ為メニ之ヲ開ク而
シテ小會議ニ於テハ高議ニ付スベキ事件ヲ委員ノ撰定ニ任セ
而シテ預メ之ヲ議員等ニ報告セシム。○臨時ニ大會議ヲ開クニ
ハ談會議所ノ議員タル三商會ヨリ之ヲ請求セシ後七日ヲ以
テ議長或ハ其命令ニ因テ議員ヲ招集ス然リト雖モ談會議所
ノ議員タル商會ノ多数(一商會ヨリ二人以上)ノ議員出席スル
モ之ヲ一談員ト算シテニヨリテ斯ル大會議ヲ開クベシ。○例
年ノ大會議ハ九月中委員ヨリ指示スル所ノ日ニ於テ之ヲ開
ク但シシテ大會議ハ之ノ前ノ報告ヲ以テ之ヲ開クモノトス。○

議所

談會議所ノ大會ヲ開クハ其時々諸新聞紙ヲ以テ之ヲ公告ス

第十一款 委員ハ談會議所會議ノ節ニハ適宜ノ需要品ヲ用意シ談會議所ノ諸雜費ヲ仕拂ヒ及ヒ一般談會議所ノ事務調理ヲ支配スルノ權ヲ委任セシム

第十二款 談會議所ニ收入スル所ノ金額ハ總テ之ヲ當時ノ出納掛ノ手ニ拂込ムモトス而シテ之ヲ仕拂ニハ議長若シ議長政ケタルハ副議長并ニ委員一名ノ記名アル引出切手ヲ以テス

第十三款 書記一員ヲ置ク之ヲ撰ムノ手續ハ當時ノ委員ノ指揮ニ從ヒ議員同説ノ多数ヲ以テ命スルモノトス○書記ノ職掌ハ談會議所ノ録事方並ニ勅定ヲ整頓シ出金ヲ収集シテ之ヲ出納掛ニ交付シ書翰往復受付ヲナシ且ツ委員ノ命令ニ從

ト一般ノ事務ヲ取扱フモノトス

第十四款 總テ委員ノ議案ハ規則通りニ招集サレタル大會議ニ因リテ認許セラルトアリ又認許セラレザルトアリ

第十五款 何人ニテモ高業ヲ営ナムモノニシテ當府下ニ来リ談會議ヲ傍聴セント欲スルモノハ談會議所ニ屬スル議員ハ紹介ニ因テ傍聴ヲ許可ス尤モ其為メニ設ケアル簿冊ニ其姓名ヲ記載セザルベカラズ然レモ二ケ月間寄留ノ者ハ議員ノ列ニ加ハルトヲ得ベシ

第十六款 普通ノコニ卓識ナル人又ハ高賣工及ヒ工業ニ有名ナル人ヲ撰テ談會議所ノ「オーナレブル」メンバール貴重ナル名ニ而シテ其ノ人ハ出金ノ募集ヨリ除クモノトス

第十七款 談會議所ノ年報ヲ製シ而シテ其寫ヲ印度支那及ヒ此他ノ同目的ノ為メニ設立セル會議所ニ送付ス

八五

第十八款 後来ノ諸先則ノ改正増補ハ該會議所議負ノ多数ニ
ヨリテヲミ之ヲ行ナフヲ得

第十九款 諸負タル所ノ諸高會ハ則チ此ノボンベイ高法會議
所ヲ以テ公衆及ヒ一般ノ利益ヲ辨理スルノ所ナリト認了セ
リト考ス

ボンベイ府商法會議所ノ續キ

一千八百七十四年ヨリ一千八百七十五年ノ間ニ施行セ
所ノ事務

一千八百七十五年十月十九日ニ於テボンベイ商法會議所議負
ノ大會議ヲ執行セリ蓋シ此年度中一千八百七十四年ヨリ一千
八百七十五年ニ亘ルニ議セシ所ノ要用ハ左ノ如シ

海關稅則改正 海關稅則ノ事ニ付テハ該會議所ニ於テ一千
八百七十二年以降種々様々ニ議論ヲ経タリ而シテ一千八百
七十三年九月二十二日ニ於テ該會議所ノ前委員ハ官ヲ地
方官ニ送り之ヲ經テ印度政府ニ海關稅則改正ニ關セル凡
百ノ事件ヲ商議センカ為メニ「マダラス」名地及ヒ「ボンベイ」名地
ヨリ發遣ノ代人ヲ共ニ「カルカタ」名地ニ於テ委員編成ノ事
可ク定メテ一千八百七十四年十月七日付ヲ以テ

尚本意ノ書翰ヲ地方官ニ送り同年十二月二日付
書ヲ得タリ其文ニ曰ク印度政府ニ於テハ一千八百七十五
年一月ノ初週間ニ於テ「カルカタ」ニ會合スルニ委員ノ編
設ヲ許可スルニ決セリト且ツ其取調ヲ容易ナラシメン
カ為メ委員中ニ加フヘキ一人ヲ命セントテ該會所ニ
依頼スト○稅額改正ノ為メニ掛リ委員ヲ編設セリ然レモ此
委員ニ先ツ左ノ件ヲ取調ヘ報告スヘキトヲ命シタリ
一有稅品ノ部類ニ置クニ格別歳入上ニ重要ナラスレテ之
ヲ有稅品ノ部類ヨリ除クキハ大ニ貿易上ニ自由ヲ與フヘ
キ所ノ物品ヲ稅則中ヨリ除去スルノ當否或ハ此他現在
ノ輸出稅物品中其課稅ノ重キカ為メ貿易上大ニ害アリト
委員ノ見込ム所ノモノ(第二英國製造ノ綿布共ニ絢絲輸
上ニ賦課スル稅ノ從來ノ實況如何ヲ取調ヘ之ヲ報告スル

但此稅目ノ事ヲ議スルニ當リ該委員ハ先ツ印度政府
ノ此稅ヲ課スルノ目的ハ決シテ該地ノ製造ヲ保護セン
為メニスルニアラスレテ唯歳入ノ為メニスルノミナルト
ト注意スヘキトヲ命セラレタリ而シテ最後ニ於テ印度政府
ハ海關稅改正ノ事ニ付テハ總テ委員ノ意見ヲ領セントテ
満足スヘキ旨ヲ委員ニ通知セリ
右ノ議定ヲ領セシ工ニテ該會議所委員ハ臨時委員(該會議所ノ
議事ニミナラス該府ニ於テ貿易ノ事ニ通曉シ或ハ紛績及ヒ織
機ノ業ニ從事スル所ノ數名ノ商人ヨリ成立ツ所)ヲ撰ビシ數
度ノ集會ト數回ノ高議討論ヲ歴タル後此臨時委員ハ稅額ニ付
キ高議ヲ遂メタリ而シテ去ル一月五日及ヒ六日ヲ以テ開キタル
大會議ニ於テ該會議所ハ異論ナク之ニ同意セリ又右大會議
ニ於テ該會議所ハ印度政府ヨリ發セン諸問題ニ付キ十分ニ高

議ヲ遂ケタリ工ニテハ税目ノ廢止ヲ政府ニ迫マラン
議ニ及ヘシ

第一 綿布及絢絲輸入税

第二 砂糖及棗輸入税但シ是レハボンベイ管内ニ夥シク輸
入スル所ノ品ニシテ且ツ大半ノ人民ガ生活工ノ要物
ナリ

第三 「ボンベイ」ニ於テ消費スル所甚ク僅クニシテ多クハ此地
ヲ以テ一時ノ貯所トナス所ノ諸物品ノ輸入税但シ此税

ハ政府ノ得ル所少ナクシテ政府ノ為メニモ商人ノ為メ
ニモ無益ノ手数ノミ多ク且ツ貿易上ニ害ヲ被ムラシ
ルト大ナルモノナリ

第四 其納税ノ額小ニシテ歳入ノ一端ヲ補ナフニ足ラサル所
ノ諸雜品ノ輸入税

八八

第五 米、藍、漆ヲ除クノ外總テノ物品ノ輸出税〇談會議所
ニ於テハ右五項ヲ以テ高議ヲ要スル所ノ最大ノ件トシテ

印度政府ニ迫リタリ

第六 特ニ印度製造物品并ニ絢絲ノ輸出税但シ租税ヨリ上ル
所ノ歳入ノ額甚ク少ニシテ且ツ印度製造品ヲシテ他國

ニ於テ其市場ヲ發見スルニ妨碍ナカラシムル
ハ目下ノ急トナス所ノ故アレハナリ

右決議ハ一千八百七十五年一月二十九日付ヲ以テ談會議所
ヨリカタルタルニ在ル税則改正委員ニ送ル所ノ書翰中ニ載セ

タリ但シ税則改正委員トシテボンベイ會議所ノ代人タラン
過半ノ議者ヨリ依頼カレタル談會議所議長「スワン」氏ガ當

時ボンベイヲ發足スルヲ得ザルノ事故發生セシ故ニ書翰
ヲ以テ右決議ヲ申送タルナリ諸君ニ陳フルカ如キ決議ニ因

歳 會

ロウソク	同	九、	八、	九、
ナ、コロウ、シトウス、ボナスチラス、	同	九、	八、	九、
シトウス、及ヒゴリス	同	九、	八、	九、
金 属				
銅「デラヒル」	同	四〇、	四八、	五二、
「アルス」、「ニコル」、「カス」、「及ヒ「ゲリウキ」	同	四〇、	四八、	五二、
鉄、平、角、棒	同	八〇、	九〇、	一〇〇、
同 同 同 (スウェーデン國産)	同	一五〇、	一五〇、	一六〇、
同 「グレート、及ヒシート	同	一〇〇、	一〇〇、	一三五、
鉛塊	同	一〇、	一〇、	一〇、
錫「デラヒル」	同	九、	九、	九、
同 英産	同	九、	九、	九、
同 鑄製	同	二五、	二〇、	二五、

八十

告ノ儀ニ付キ印度政府ノ決議及ヒ一千八百七十五年第十六号
 印度税則ハ一千八百七十五年八月五日ニ於テ^{ガヤルナラ}施政長官ノ允准
 ヲ經同六且法律トシテ之ヲ宣告セリ則チ左ニ掲ケル所ノ一表
 ニテ該會議所ヨリ建言マレ所ノ税額差ニ印度政府ニテ取捨
 理セシ所ノ税額ヲ示ス

改正委員ハ印度ノ一種奇異ナル事情アルニヨリテ巨額ヲ得
得ヘキ所ノ如何ナル物品上ニモ稅額増加ヲ建言スルヲ得
ルガ故ニ一項ニテハ僅々タル一小額ニ過キスト雖氏之ヲ一團
ニ集ムレバ大額ヲナスベキ所ノ稅額ノ廢止ノ說ニ依リテ欲セ
ザリシナリ

石改正ノ新稅則ニ付テハ其稅目中唯一項ヲ除クノ外ハ大帝國
即チ英國ノ專ニシテ印度其他ノ人民悉ク之ヲ満足トナセリ是
種民地ノ稅額ハ一般貿易上ニ便利ヲ與フルト大ナルカ故
レ課稅ノ減額ハ一般貿易上ニ便利ヲ與フルト大ナルカ故
然リト雖氏此新稅則中ニ一ノ有害ナル稅目ヲ現ハシ来リシ
實ニ悲歎ノ至リナリ即チ「コンチナタル」アジャト重相ト大ト
ハ錫蘭地方ノ產ニアラザル棉花ニ本價五分ノ稅ヲ課セシガ如
キハ實ニ印度人民コシテ其自國ノ製造ノ隆盛ヲ遏止セシムル
丁顯然タリ○該會議所委員ハ議員ヲ召集シ且ツ内外ノ商人ヲ

八十二

招引シテ共ニ此稅目ノ當否ヲ商談セシメント欲シ九月十一日
ヲ以テ該會議所ニ於テ此會議ヲ開ケリ而シテ此會議ニ於テ獨リ
不同意ノ投票ハ只二個ノミニテ左ノ如ク決議セリ

第一 此會議ハ一千八百七十五年ノ印度稅則ニテ英領印度ニ
輸入スル所ノ「コンチナタル」アジャ或ハ錫蘭產ニアラ
ザル棉花ニ本價五分ノ稅ヲ課セシトテ以テ印度ノ製造
上ニ不當且ツ無業ノ妨礙トナリ又内國製造ヲ發達セシ
ムルニ必用ナル租生物ノ自由輸入ヲ懲禁セントテ要ス
ル所ノ英國及ニ其他開明國ノ通商ノ本旨ニ背ケリト議
定セリ
第二 該會議所委員ヲ右稅目ノ直チニ廢止セザレントテ請
求スル所ノ覺書ニ添ヘテ此會議ノ議案ヲ印度政府ニ送
呈セシテ議定セリ

大義

大ニ廢止セラレシムルヲ請求スル所ノ覺書
ヲ施政參政閣下ニ送りテ印度政府ニ轉達
カタルニイラシム

大 新 報

此
次
キ
ニ
猶
オ
摘
譯
ノ
數
條
アリ
現
今
翻
譯
着
手
中
ニ
係
ル

